

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」豊中駅前校		
○保護者評価実施期間	2024年10月7日		2024年12月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	2024年10月7日		2024年12月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	指導員がそれぞれ支援の事を第一に考えてくれているため、利用者様も安心して通えている事。それに伴い、安定した運営体制を築けている部分が強みだと考える。	利用者様に安心して通ってもらえるように、細やかな支援の引継ぎ、支援準備に備えている。指導員それぞれの個性を生かしたオーダーメイドの支援を提供している。利用者様の特性に合わせてプログラムを組んでいるため、一人一人に寄り添った支援を意識して取り組んでいる。	今後も引き続き、生かす事ができるように自己研鑽に努め、校舎間交流や研修等行い、更なるスキルアップを目指していく。
2	・個別支援だけでなく、支援後は活動(小集団)を行っている。 ・コミュニケーションに重きを置いた支援内容	個別支援の強みを活かしながら、保護者と指導員がフィードバックを行っている時は子ども同士で集団活動をしている。他者との交流も含め、それぞれがばらばらの遊びをすることで怪我のリスクが高まるが同じ遊びをすることで事故を防ぐことができる。	小集団の時間を長くし、一つのプログラムとして提供する。学校以外での集団活動の場がないお子様にも、集団活動の場でどんな様子かを見ることが出来る。
3	・基本担当制だが、複数担当制を設けている。	担当制にすることで、一人のお子様の変化に気づきやすいメリットをいかしている。しかし担当制にこだわりすぎると、臨機応変に対応することが難しくなるため複数担当制を設けている。様々な指導員と関わることで社会性を身に付けることが出来る。	一人のお子様を様々な指導員が関わったことを、報告の場を設け、そのお子様に合った支援は何かを事業所全体で考え

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用人数に対してスペースが狭い	同時に複数支援が入る場合は、大きくスペースを使うことが難しく体を動かす支援に限りがある。	同時時間帯に複数のお子様にも固めないよう工夫することが必要。
2	・個別療育の説明や対応	個別療育の支援が受ける事ができるが、学習サポートのニーズが高く、学力向上を目指している保護者が多くその説明や対応方法。	相談機関への営業方法や取り組んでいる内容を説明し、アプローチ方法をこれまで通りではなく、児発に特化していることを伝えていく。
3	・全国展開している校舎の差について	・全国的展開しており、同じ方針に向かって各事業所取り組んでいるが、人材確保や経営管理の複雑化など差が生じてしまう。	他の校舎へ情報収集や見学を行い、取り組んでいる内容に大きく差が開かないよう戦略を立てる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」豊中駅前校
------	---------------------

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 2024年12月21日

回収数 36

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	31	4	0	1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	31	3	0	2		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	4	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	34	2	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	32	4	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	32	3	0	1		
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	34	2	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	32	4	0	0		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	36	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	31	2	0	3		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	5	15	13		特に必要を感じておりません。 →生活や学校場面での交流や活動の機会が多いと思いますので、本事業所では現状のまま運営させていただきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	36	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	36	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	7	1	17		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	36	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	31	5	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34	1	0	1		
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	5	12	17			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	29	1	0	6	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	36	0	0	0	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	7	1	21	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35	1	0	0	個人情報にかかる資料やPC等は、鍵のかかるロッカーに保管するなど、取扱いに十分注意している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	4	0	10	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22	0	0	14	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	29	2	0	5	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	26	2	0	8	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	36	0	0	0	毎週楽しく通所しているという声をいただきました。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	35	1	0	0	
	29	事業所の支援に満足していますか。	34	2	0	0	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」豊中駅前校			公表日		2025年 2月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		必要に応じて机等の配置を毎回変えている。	支援スペースは法令順守しているが、今後もより充実した支援が提供できるように活用スペース等の工夫に努めていきたい。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			職員の配置については法令順守している。今後も適切な職員配置をしていく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		支援室には段差はなく、バリアフリー等に配慮している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		パーテーションで区切り、個室の空間を作るなどの環境設定を行っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日常的に業務について情報共有するとともに、ミーティングにおいて支援環境や内容、方法について改善に努めている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		振り返りやモニタリングの際に保護者様の思い等の聞き取りをさせていただきなど、コミュニケーションをとるようにしている。保護者様との信頼関係を大切にしながら、業務改善に努めている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者からの評価ができるだけ得られるように相談支援事業所や学校、園等の関係機関のお話から「きらり」への評価の把握に努めている。	サービス向上のため、今後も外部機関との連携の中で、評価が把握できる意見をお聞きし、業務改善に繋げていく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の研修を積極的に参加しており、各自自己研鑽に努めている。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		社内で統一し標準化されたアセスメントツールを使用している。	今後も丁寧な振り返り、職員間の情報共有・意見交換に努め、課題を整理・把握し、充実した支援提供につながる計画作成に努める。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ケース会議を開催し、支援計画を作成する指導員とも情報共有を行っている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画に沿って、支援を行うよう周知し、校舎間で共有できているか随時報告するよう努めている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			新しくできた制度でもあるため、適切に行えているか確認、共有しながら努めている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○					

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		より楽しく支援を受ける事ができるように、支援内容の工夫に努めるとともに、個々の指導員の持ち味や得意を活かした支援を目指すことで固定化に繋がらないよう取り組んでいる。	今後も支援内容等について意見交換や情報交換に努め、支援内容の幅を広げている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			朝礼、終礼を行い、伝え忘れがないよう随時共有をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			記録についての研修も行い、それぞれが異なった認識をしないように努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			モニタリング時に保護者様と情報共有をしっかりと行い、新たなニーズをお聞きし、次の個別支援計画作成に活かしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。		○			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○					
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			セルフプランのため相談支援事業所のサービス担当者会議が開催される機会が少ない状況。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○				
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○				
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○				
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○				
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○				
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			モニタリング時に、保護者様やお子様の状況と支援の今後の方向性等をお話し、子供や家族の意向を確認する場を設けている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		モニタリングでも個別支援計画の目標や内容を説明するとともに、作成した個別支援計画を保護者様にお渡しする際に説明させていただいている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報にかかる資料やPC等は、鍵のかかるロッカーに保管するなど、取扱いに十分注意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			防災訓練は定期的を実施しているが、マニュアルの保護者様への情報提供が十分ではない。今後アナウンスに努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			BCP等の作成は行っているが、その内容についての保護者様への情報提供が不十分である。今後アナウンスに努める。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬、てんかん等があるお子様は、状況をこまめに確認し、万が一事業所で起きた場合はどうするか対策を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		食事提供は行っていない。支援のツールとして小麦粉・片栗粉などを使用する際は、その都度確認を行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		校舎間で小さなヒヤリでも記録に残し、お子が怪我をしないよう安全配慮を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修を実施し、受講できなかった職員には日を改めて伝達し、全員に周知できるようにしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に契約書や重要事項説明書をもとに説明するとともに、教室内に掲示している。		